

一般質問

主な質問と答弁

一般質問とは、市の事務や市が抱える課題等について市長などにただすものです。9月定例会では19名の議員が一般質問を行いました。
 一般質問の全文は、11月下旬作成予定の本会議録に掲載します。図書館や鎌倉市議会ホームページ内「会議録検索システム」をご覧ください。

深沢のまちづくりについて

自民党 後藤 吾郎



質問…深沢のまちづくりは時期的な問題を含めて新駅設置や新庁舎移転の話と混同している市民の方が多いと認識している。より事業進捗を丁寧に市民へ伝える必要があると考えるがいかがか？

まちづくり計画部担当部長…これまで深沢まちづくりニュースの発行、自治会・町内会に対する説明会の開催、鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン(案)のパブリックコメントなどで周知を図ってきたところではあるが、今後は土地区画整理事業の施行者であるUR都市機構とも連携しながら事業進捗ごとに丁寧な市民周知に努めてゆく。具体的には事業単独でのホームページ作成やSNSでの広報、市民などへの事業の説明会、イベントの開催も検討する。

その他の質問:日中一時支援事業について 2024年のトリプル改定を受けてその需要が高まっていることを紹介、再度単価の見直しを要望



子育て支援と交通不便解消支援

ゆめみらい 前川 綾子



質問…今年4月の鎌倉市の保育所待機児童数は県下1位。早急の対策を進めているそうだが、保育の質の確保も大切ではないか。

こどもみらい部長…第三者委員会を設け質の確保に努めているが、令和3年3月にはガイドラインを策定、引き続き取り組んでいく。

質問…チャイルドシート付きの電動アシスト自転車は子育てママ、パパの大きな武器。しかし駐輪場のスペースが足りない。

まちづくり計画部担当部長…駐輪場はラック方式が基本で平置きスペースが一定程度しかない。今後は配分を検討する。

質問…交通が不便な地域の実態把握について。

同部長…市民等へのアンケート調査を年内にやりたい。

その他の質問:産院は大船方面にしかない、交通費の補助が必要。公園遊具の修理状況、子供に分かるような看板を。



居場所について、健康づくりの推進について

日本共産党 吉岡 和江



質問…小学校単位の子ども会館が廃止され、世代を超えて集える場所が少なくなった。歩いて行ける場所、小学校単位での居場所の検討が必要ではないか。総合計画に位置付けるなどさまざまな人が使いやすい居場所の検討を。

市長…居場所は人のつながりに肝要な施策。ハードソフトの両面で考えていく必要がある。関係団体と連携しながら取り組んでいきたい

質問…介護になる原因の一つは骨折。骨粗しょう症は自覚がなく進む。骨粗しょう症の節目検診の検討を。

健康福祉部長…骨粗しょう症予防は単に検診だけでなく生活習慣改善が重要。トータルで考えていく必要がある。

その他の質問:高齢者交通優待制度と公共交通の充実について、緑内症、加齢性難聴検診、補聴器補助、歯周病検診、体育館の空調設置等



犯罪被害者等への支援について

自民党 森 功一



質問…犯罪被害者支援条例の制定に向け検討しているが支援対象は。

共生共創部長…支援対象は市内在住、在勤、在学者とし、具体的な犯罪対象は殺人など生命・身体に対する犯罪や重大な交通事故を想定している。

質問…すでに条例を運用している市町村の支援内容を取り入れつつ、特色ある支援としていただきたいがいかがか。

同部長…県内各市町の支援内容を踏まえながら進めており、避難時のペットホテル利用費支援など本市独自の取り組みも検討している。

質問…被害者の方が早く穏やかな生活を取り戻せるよう、寄り添った支援制度にしてほしいが市長の考えは。

市長…犯罪被害者に寄り添った制度となるよう条例制定に向け取り組む。

その他の質問:消防団の暑さ対策について、消防団員の確保について



鎌倉の歴史・現在・未来

無所属 松中 健治



質問…東京国立博物館・神護寺展を見て、源頼朝公や文覚上人の歴史的功績は偉大で、鎌倉でも歴史展や博物館を国、県と協議すべき。

市長…源頼朝による神護寺の復興等、鎌倉とのつながりを伝える必要がある。

教育長…文覚上人を含め、鎌倉幕府の人物に係る魅力的な展示を検討。

質問…探究・学習シンポジウムは素晴らしいのでIT時代に活用できる。実社会にとっても使えるシステム。感想を。

教育長…探究的学びについて、教育関係者だけではなく地域にも共有できるいい機会。

市長…学校の先生による素晴らしい取り組みの報告は、鎌倉の目指す姿が明確に。

その他の質問:鎌倉市の道路。旧JR工場跡地開発計画に関連して。鎌倉市計画道路について。防災、災害対策について。



返子に持っていく燃やすごみは減らせる?

ネット 保坂 令子



質問…来年1月中旬以降は、燃やすごみを返子市の施設(CC)で処理してもらうが、令和7、8年度における処理量の見込みはどうか。

環境部長…燃やすごみの減量を進め、11年度に返子CCでの全量処理を目指す。7年度は返子で8,914t、市外民間施設で10,057t、8年度は返子で9,273t、民間で9,616tの見込みである。

質問…まず燃やすごみだけを戸別収集に移行するが、集積所に出す手間がかかる資源物の燃やすごみへの混入が増えるのではないか。

同部長…本市と同様に燃やすごみのみを戸別収集にした平塚市の社会実験では、燃やすごみは16%減量、混入資源物もプラスチックで3%、紙で2.1%削減しており、分別の促進が期待できる。

その他の質問:防災力向上マンション認定制度、要支援者個別避難計画、災害時のトイレ機能確保、計画改定後の公共施設再編



公共下水道事業と市営住宅集約化事業について

公明党 納所 輝次



質問…下水道管の耐用年数の設定は。

都市整備部長…国の標準耐用年数と同じ50年としている。

質問…下水道施設の地震・津波・浸水対策はどう取り組んでいるか。

同部長…令和4年度で緊急輸送路の非開削での対策は完了、山崎浄化センターでは現在耐震診断を実施している。

質問…民間と連携するウォーターPPPの導入をどう考えるか。

同部長…施設の改築・更新の課題もあり、導入の検討を進めていく。

質問…市営住宅集約化事業で笛田にA棟が完成し移転が始まった。移転後の家賃はどうなるのか。

同部長…6年かけて段階的に新家賃に移行していく。

質問…市営住宅集約化事業で多世代交流拠点を整備してはどうか。

同部長…国土舘大学等と連携し、そのことも検討する。

